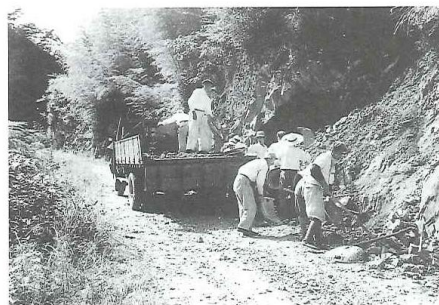


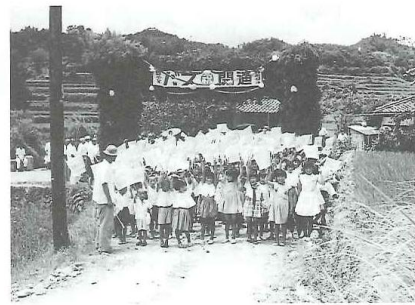
四熊線バス開通・・・ダム経由 (昭和30年)



四熊線バス開通の様子



愛路組合の人たちの道路拡張工事



小旗をふって喜ぶ子どもたち

四熊のように道の悪い所から嫁をもらうな、とまで言われ地区民が熱願していた四熊線のバスがついに完成しました。昭和30年3月に道路が完遂してから、部落の有志が集まって愛路組合を設立。組合長小林六之進氏、顧問小林峯雄氏らが中心になって一戸一名およそ140名が集まり、それに青年団員も協力して四熊線開通のために、四熊間上間2、4キロのバス道路がついに完成をみました。これに併せ、間上、川上間の幹線の幅員拡張工事、バスの待避所10ヶ所の設置など困難な工事でも部落の人たちが進んで土地を直しました。皆で協力して行ったので、難工事でも完成できたのです。この工事により、部落の人たちがいっそう団結できたのです。負傷者もなく、問題の一つもなかったのです。小林さんをはじめ、部落人たちはたいへん喜びました。

(徳山市広報の新聞記事より)